

学校訪問シリーズ 39

由布市立挾間小学校から学ぶ

学校経営から学ぶ

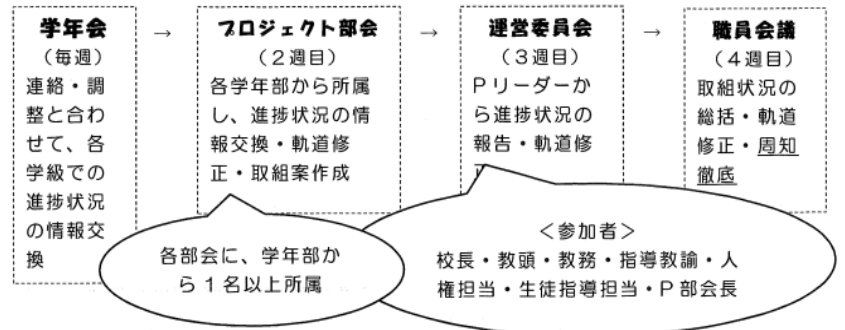
学校の教育目標「主体的に学び、人とのつながりを大切にする子どもの育成」を達成するため、育成を目指す資質・能力を「対話力（話す、聴く、共感的人間関係）」と定め、授業の中で「対話の場」を設定しています。

また、本校の「対話力」は、

課題解決をするために、対面した相手とやりとりをしたり、資料やノートを手掛に考えたりすることを通して自分の考えを広げ深めたり、新たな考えを生み出したりする力

と捉え、さらに、保護者にも「親子対話」を奨励することで、「対話活動を通して、自分の考えが深まった」という児童を協働的に育てています。

また、教職員は「**学び部会1**（めあて、振り返りの質の向上、教科横断的活動）」「**学び部会2**（対話の充実、思考ツールの活用）」「**こころ部会1**（人権教育、いいところ見つけ等）」「**こころ部会2**（共感的人間関係の構築）」のいずれかの分掌組織に所属します。そして、それぞれ重点目標を設定し、学年会→プロジェクト部会→運営委員会→職員会議を経て、計画的に実践し進管理を行っています。このような組織的な取組を行うことで、若手教員の育成にもつながっているようです。



授業から学ぶ

今回参観した授業では、指導案の「めあて」と「振り返り」が連動し、適切な評価規準や支援の必要な子どもへの具体的な手立ても明確でした。本校の校内研究が日常的に実践されていると感じました。

これからも、対話の場をを多く取り入れることで、挙手する子どもだけでなく全員が説明に参加できるような工夫をされると良いと思います。その際、教師は全体を俯瞰的に見ることで、それぞれのグループの良さや進捗について形成的な評価を行い、次への活動につなげると良いと思いました。

